

令和元年度

授業改善プラン

- I 「目黒区学力調査」の概要
- II 平成30年度「授業改善プラン」の検証
- III 「目黒区学力調査」等に基づく授業改善プラン
 - ・本校の授業改善に向けた方策（学校全体）
 - ・第1学年～第6学年

令和元年9月

目黒区立駒場小学校

I 「目黒区学力調査」の概要

1 調査の趣旨

目黒区立小・中学校の児童・生徒に「学力調査」を実施し、児童・生徒の学習状況を組織的・継続的に調査・分析するとともに、各学校の指導法やカリキュラムの改善・充実を図り、学力の定着・向上を目指す。

なお、本調査は、目黒区立小学校の第2学年～第6学年の児童及び目黒区立中学校の全学年生徒を対象に実施された。（原則として、特別支援学級に在籍する児童・生徒は対象としない）

2 調査の内容

(1) 調査の対象学年及び対象児童数（本校）

	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
対象数	57人	87人	78人	56人	74人
実施数	57人	87人	78人	56人	72人
受検率	100%	100%	100%	100%	97%

(2) 調査内容と実施教科

① 学習指導要領に示された目標の達成状況（観点別学習状況）

② 児童の学習に関する意識

2年 意識調査、国語、算数

3年 意識調査、国語、算数

4年 意識調査、国語、算数、理科

5年 意識調査、国語、算数、理科

6年 意識調査、国語、算数、理科、社会

(3) 実施日

平成31年4月16日（火）

Ⅱ 平成30年度「授業改善プラン」の検証

(1) 成果

昨年度に続き、全学年、全ての教科において目標値を上回っており、十分満足できる状況である。その中でも、国語科「言語についての知識・理解・技能」や算数科「数量や図形についての知識・理解・技能」に関しては、目標値を大きく上回り、ほとんどの学年で8割から9割程度の高い正答率を得ることができた。これは、少人数指導体制のもとでの指導内容改善や週4回の20分間の学習時間（ベーシックタイム）における国語科・算数科の基礎・基本の定着を図った取り組みの成果と考えられる。

また、各教科における基礎・活用についても、全ての教科で目標値を上回り十分満足な状況である。特に、活用については、基礎・基本の力を生かして各教科の言語活動を充実させたことや、答えを導く過程を重視して指導し、発表やレポートなどで自分の考えを表出させる活動を取り入れたことが、思考力・判断力・表現力等の高まりに寄与したと考える。

(2) 課題

- ・ 正答率は概ね良好であるが、昨年度に続き、2年生の国語科「書くこと」が平均値を少し下回り課題を残す結果であった。さらに5年生、算数科、理科の正答率が区平均と同程度だった。特に、観点別に見ると関心・意欲・態度、知識・理解などのポイントが低いままである。さらに、6年生では、上位者が多い中、下位の児童もおり二極化している。
- ・ 国語科の観点別正答率において「話す・聞く能力」では、学年が上がるにつれてその率が下がる結果となった。低・中学年で定着した力を維持させるための、指導の見直しやよりきめ細かい指導が必要でなる。

Ⅲ 目黒区学力調査等に基づく授業改善プラン

(1) 本校の授業改善（学力向上）に向けた方策

- ・ 国語科・算数科では、少人数学習指導の指導方法や指導体制を工夫し、本調査の分析をもとに、個に応じた指導の更なる充実を図る。
- ・ 週3回、朝の読書タイムでは、計画的に読書指導を行い、児童の語彙を増やしたり想像力を豊かにしたりする。また、意図的に教師による読書紹介の機会を設けるようにする。
- ・ 毎日、午後の学習の始めに20分間の学習時間（ベーシックタイム）を設定し、国語科・算数科の基礎・基本の定着を図ったり、「関心・意欲・態度」を高める活動や「知識・理解」を深める課題を積極的に取り入れたりする。
- ・ 各教科の言語活動の充実を図るため、国語科を中心に他教科でも言語活動の充実をねらいとした教師向けの研修会を行う。今年度も引き続き、思考力・判断力、表現力等の育成に努める。
- ・ 東京大学・駒場野公園等、恵まれた地域の自然環境を活用し、生活科・理科・総合的な学習の時間などの体験的な学習を充実させ、児童の理科に対する「関心・意欲・態度」を高める。

(2) 本校の各教科における授業改善に向けた具体的な方策

- ・ 算数科も国語科も少人数体制を整えているので、指導体制や指導内容を改善していく。その一つは、指導の工夫（指導形態や教材開発）である。学級担任と少人数担当とが調査結果を踏まえた上で指導計画を再考したり、個に応じた指導を展開したりする。
- ・ 国語科では、教科書や教材と照らし合わせて調査結果を分析する。また、その分析をもとに指導

のあり方を再考し指導改善に努める。

- ・理科の学習では、学校で統一したノート指導を行ったり、観察などの指導では、設問や発問の工夫をしたりして、課題や視点を明確にした授業を行う体制作りを引き続き行う。また、第3学年の理科については、指導計画や評価規準をさらに見直し、観察・実験の技能や自然事象についての知識・理解が深まるよう授業内容の改善を図る。
- ・下位の児童については、個別対応で基礎的な学力を付けていくよう計画・実践していく。

授業改善プラン

駒場小学校 第1学年授業改善プラン

	1 課題となる領域等	2 年間指導計画	3 単元指導計画
国語	【領域：書くこと】 (観点：書く能力) <u>既習事項との関連</u> ・学習したひらがなを用い、語と語のつながりを考え、助詞を正しく使いながら、見たことや、自分の思いを文章に表すことができる。	①よく見て書こう 「しらせたいな 見せたいな」 (10月) ②てがみをかこう 「てがみでしらせよう」 (1月) ③おもい出してかこう 「いいこといっぱい一年生」 (3月)	①「知らせたいもの」を観察し、見つけたことを一つずつ短冊カードに描く活動を設定する。 ②誰に書くのか意識させて、自分の経験を集めさせる。 ③絵や写真をもとにして、書きたいことを、短い言葉でメモする時間を設定する。 ③自分のメモをもとに伝えたいことを明確にしながら「いつ、どこで、何をした」の順序を考えて文に書き、読み合う時間を設定する。
算数	【領域：数と計算】 (観点：数学的な考え方) <u>既習事項との関連</u> ・加法、減法を表すキーワードを基に、問題場面を絵に表すことができる。	①たしざん (2) (11月) ②ひきざん (2) (12月) ③たすのかな ひくのかな (12月)	①確実な計算力を身に付けさせるために毎時間、授業の初めに計算カードを活用した計算練習時間を設定する。 ①絵や図、言葉を用いて文章問題の場面を表現する活動を多く設定する。 ②確実な計算力を身に付けさせるために毎時間、授業の初めに計算カードを活用した計算練習時間を設定する。 ②絵や図、言葉を用いて文章問題の場面を表現する活動を多く設定する。 ③ブロックなど、具体物の操作を通して考える時間を多く設定し、そこから図に表す活動を取り入れる。

授業改善プラン

駒場小学校 第2学年授業改善プラン

	1 課題となる領域等	2 年間指導計画	3 単元指導計画
国語	【領域：読むこと】 (観点：読む能力) 既習事項との関連 ・事柄の順序などを考えながら内容を読み取ることができる。	①せつめいのしかたに気をつけて読もう「しかけカードの作り方」(11月) ②じんぶつと自分をくらべて読もう「わたしはおねえさん」(12月) ③お話をそうぞうしながら読もう「スーホの白い馬」(2月)	①教科書の写真を見て作り方を話し合ったり、教材文でどんな表現がわかりやすい説明なのかを考えたりする時間を設定する。 ②時、場所、人物、出来事を中心にあらすじを読み取る時間を設定する。 ③登場人物の言動から、その心情を考え、意見を交流する場を設定する。
	【領域：書くこと】 (観点：書く能力) 既習事項との関連 ・与えられた情報を整理して、例にならって文を書くことができる。 ・自分の考えが明確になるよう文を書くことができる。	①まとまりに分けて、お話を書こう「お話のさくしゃになろう」(10月) ②できごとや気もちがつたわるように書こう「楽しかったよ、二年生」(3月)	①物語の登場人物には、名前や性格などの人物像を考えてノートにまとめる時間を設定する。「はじめ」「中」「おわり」のまとまりを意識しながら話を書くことができるようなワークシートを用意して、下書きをする時間を設定する。 ②「したこと」「思ったこと」「言ったこと」などの観点で整理する時間を設定する。「はじめ」「中」「おわり」の組み立てを意識しながら話を書く時間を設定する。
算数	【領域：数と計算】 (観点：数学的な考え方) 既習事項との関連 ・加法・減法にあった文章問題を選ぶことができる。 ・異種の量の加法の式に合った図を選ぶことができる。 ・絵の中の時計を読み取り、条件を満たす場合を考えることができる。	①かけ算(10月) ②たしざんとひき算(2月)	①乗法が用いられる場面を一つ分の大きさと、そのいくつ分かというところに着目させて具体物や図、式などで表現させる。 ②数量関係を図や言葉や式で表し、加法や減法の相互の関係を説明する時間を設定する。

授業改善プラン

駒場小学校 第3学年授業改善プラン

	1 課題となる領域等	2 年間指導計画	3 単元指導計画
国語	【領域：書くこと】 (書く能力) 既習事項との関連	①ざいりょうを集めて、ほうこくする文章を書こう 「気になる記号」(6月) ②せつめいのくふうについて話し合おう 「食べ物ひみつを教えます」(11月) ③おもしろいと思うところを、しょうかいしよう 「たから島のぼうけん」(12月) ④本で調べて、ほうこくする文章を書こう (2月) 「ことわざについて調べよう」	①必要な言葉にサイドラインを引かせるなどの指導を行う。また、与えられた情報の中から取捨選択し、短文作りをする活動を取り入れる。 ②資料から調べたことについて、要点を落とさずにメモすることを指導する。また、メモをもとに文章を書く際には、文の構成を意識できるように、下書き用のワークシートを用意する。 ②段落ごとの内容を分けられるようにワークシートを別々に用意し、一つの段落には一つの内容を書けるように工夫する。 ③地図から想像したことをたくさん出させ、物語作成の材料を引き出す。 ③会話文を入れたり、行動や様子を詳しく書いたりして、文章を膨らませられるように指導する。 ④自分の調べたことわざを文章でまとめられるように、一つ一つのことわざの説明を記入できるワークシートを用意する。
算数	【領域：数と計算】 (観点：数学的な考え方) 既習事項との関連 ・場面を理解し、条件を満たす場合を考え、その理由を説明できる。	①かけ算(4月) ②わり算(5月) ③あまりのあるわり算(6月) ④たし算とひき算(6月) ⑤かけ算の筆算(9月) ⑥大きい数(9月) ⑦小数(12月) ⑧2けたのかけ算(1月) ⑨分数(1月) ⑩そろばん(2月)	②③問題作りの時間を多く設定し、児童が作った問題を取り上げながら立式させたり、計算のしかたを考えさせたりすることにより、除法の意味を深め、あまりの意味も明らかにしていく。 ④小単元「どんな計算になるかな」では、適切な演算決定につなげていくために、問題の場面をテープ図に表す活動を多く設定する。 ⑨小単元「分数のたし算とひき算」では、単位分数の考えをもとに計算のしかたを具体物や図を用いて考える時間を多く設定する。
理科	【領域：物質・エネルギー】 (観点：科学的な思考・表現) ・科学的な物の見方をしようとする。 ・問題解決的な学習方法に取り組むこと。	①風やゴムで動かそう(11月) ②明かりをつけよう(12月) ③じしゃくにつけよう(1月) ④物の重さをくらべよう(2月)	①学習課題を正確に把握し、予想・実験・結果・考察という問題解決学習の流れを身に付けられるようにする。 ④表などを使って、実験結果を整理し、比較できるようにする。
社会	【領域：地理的環境と人々の生活】 (観点：社会的事象についての知識・理解) ・社会的事象に対する興味・関心をもちさせること。 ・身近な社会的事象から観察し、考察すること。	まちの人々の仕事(9月)	・児童の興味・関心を高めるために、自分たちの住んでいる地域や、自分たちの生活に即した体験活動を多く計画する。 ・身近な社会的事象から、調査や観察したことを相手に伝えることを意識して、白地図やパンフレット等にまとめる活動を行う。

授業改善プラン

目黒区立駒場小学校 第4学年授業改善プラン

	1 課題となる領域等	2 年間指導計画	3 単元指導計画
国語	【領域：伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】 (観点：「言語についての知識・理解・技能」) 【領域：書くこと】 (観点：書く能力) <u>既習事項との関連</u> ・国語辞典の使い方を理解している。 ・文の構成について理解している。 ・表と文章を読み取って、適切な言葉を補って文を書くことができる。	①説明の仕方を工夫して、分かりやすく伝える文章を書こう 「『クラブ活動リーフレット』を作ろう」(11月) ②言葉について考えよう 「文と文をつなぐ言葉」(12月) ③本で調べて、ほうこくする文章を書こう(2月) 「わたしの研究レポート」	・教材文を読み、難しい語句を国語辞典で調べる時間を設定し、国語辞典の使い方を身に付け、語彙を増やすようにする。 ①説明したい相手を決め、相手に応じて説明する内容や組み立てを考える。取材をし、写真と文章を工夫して組み合わせ、リーフレットを作成する。 ②文と文の意味のつながりを考えながら、接続語を使って短い文を書く。接続語の役割を知り、文章をより良い表現にする。 ③書くことを決めて必要な事柄を調べ、調べてわかったことを明確にして文章を書く。書いたことを読み返し、必要に応じて修正する。表現したり理解したりするために必要な語句について辞書を利用して調べる。
算数	【領域：数と計算】 (観点：数学的な考え方) <u>既習事項との関連</u> ・()を用いて1つの式に表した3つの数の乗法について、式の意味を場面と結びつけて説明できる。	① 大きい数(4月) ② 計算のしかたを考えよう(5月、11月) ③ 1けたでわるわり算(7月) ④ 小数(9月) ⑤ 2けたでわるわり算(9月) ⑥ そろばん(10月) ⑦ がい数(10月) ⑧ 小数のかけ算とわり算(11月) ⑨ 分数(1月)	① 万や億、兆を単位にして十進位取り記数法による数の相対的な大きさの見方を活用して数をとらえたり、数を比較したり、計算したりできるように、既習事項と関連付けて計算をするなどの場を設ける。 ④⑧ 小数の加減乗除では、単に答えが合えばよいという結果重視ではなく、結果が出るまでの手順や思考を重視して話し合う場を多く設定する。 ⑨ 視覚的にとらえられるように具体物を用いて真分数、仮分数、帯分数の意味と用語を指導するとともに、同分母分数の加法、減法の計算のしかたを考える過程においては、図や数直線などを用いて表現する場面を多く設定する。
理科	【領域：生命・地球】 (観点：自然事象についての知識・理解) <u>既習事項との関連</u> ・動植物のからだのつくりを理解している。(ホウセンカ・トンボなどの昆虫)	① すずしくなると(9月) ② 寒くなると(1月)	①② 春と夏に行った観察をもとに、動植物の様子を振り返る場面を設定する。その際に、植物と昆虫の体のつくりや成長について繰り返し確認する。 ①② 1年間の記録をまとめて、生き物の様子の変化とあたたかさとを関係付けて考える。
社会	【領域：地理的環境と人々の生活】 (観点：社会的事象についての知識・理解) <u>既習事項との関連</u> ・東京都の特徴について、地図帳や資料をもとに判断すること。	① わたしたちの東京都(1月)	① 毎時間、地図帳を活用して、東京都内の地理の様子を振り返る場面を設定する。そこで、八方位の言葉の意味や土地の使われ方について繰り返し確認する。 ① 各小単元が終わった時は、重要語句を用いつつ、自分の考えをまとめる活動を取り入れる。

授業改善プラン

駒場小学校 第5学年授業改善プラン

	1 課題となる領域等	2 年間指導計画	3 単元指導計画
国語	【領域：話すこと・聞くこと】 (観点：話す・聞く能力) <u>既習事項との関連</u> ・話し手の意図を考えながら、話の内容を聞き、メモを取ることができる。	①話の意図を考えてききあい、「きくこと」について考えよう 「きいて、きいて、きいてみよう」(6月) ②説得力のある構成を考え、すいせんするスピーチをしよう 「すいせんします」(1月)	①「きいて、きいて、きいてみよう」の単元で、メモの取り方について丁寧に指導し、記録者としてメモを取りながらインタビューを聞く活動を設定する。また、自分がとったメモを見ながら、聞き取ったインタビューの内容について報告する活動を設定する。 ②「すいせんします」の単元で、話し手の推薦するものやその理由など、聞くポイントを整理してから発表を行い、聞き手が話し手の意図を考えながらスピーチを聞けるように指導する。また、メモを取りながらスピーチを聞かせ、気付いたことをお互いに発表する活動を設定する。
算数	【領域：図形】 (観点：知識理解) <u>既習事項との関連</u> ・四角形の対角線の性質を理解している。	① 図形の合同(4月) ② 図形の角(6月) ③ 正多角形と円(1月) ④ 立体(2月)	①合同な図形についての理解を深めるために、ぴったり重なる図形を確かめたり、実際に合同な図形をかいたりする際に、作業的・体験的な活動を設定する。 ②三角形の角の大きさの和を測定や多様な算数的活動を取り入れて確認する。四角形や多角形の内角の和についても、三角形の角の大きさをもとに考え、説明させる場面を多く設定する。 ③折り紙を使って正多角形を作るなどの活動の場を多く設定し、正多角形の定義や性質への理解を深める。また、円周率については、3.14に至る過程を大切に考え、直径と円周の関係を調べる時間を多く設定する。 ④ 立体図形の模型を観察したり、展開図に表したものを組み立てたりする活動時間を多く設定する。
理科	【領域：物質・エネルギー】 (観点：自然事象についての知識・理解) <u>既習事項との関連</u> ・乾電池の並列つなぎを理解している。	①電流がうみ出す力(1月)	①電磁石を作って電流を流し、電磁石と棒磁石を比べながら、電磁石の性質について考え、電磁石の性質についてまとめる。 ①電磁石を強くする方法について話し合い、調べる計画を立て、電流の強さを変えたり、コイルの巻き数を変えたりしたときの電磁石の強さについてまとめる。 ①電磁石を利用した道具やおもちゃを作る。電磁石のはたらきについてまとめる。
社会	【領域：国土】 (観点：観察・資料活用・技能) <u>既習事項との関連</u> ・世界の主な大陸や海洋、国の名称や位置などを地図からの読み取り。	①わたしたちのくらしと国土(4月)	①地図の読み取り、縮尺の考え方について丁寧に指導し、地図から主な国の位置や名称を読み取ったり、ある地点からある地点への距離を求めたりする活動を取り入れる。 ①他の単元においても、地図を積極的に活動に取り入れ、地図を使うことに慣れさせる。

授業改善プラン

駒場小学校 第6学年授業改善プラン

	1 課題となる領域等	2 年間指導計画	3 単元指導計画
国語	【領域：読むこと】 (観点：読む能力) 既習事項との関連 ・文章内容を読み取り、他の例に当てはめて考えることができる。	① 登場人物の心情をとらえ、感想をまとめよう 「カレーライス」(5月) ② 自分の感じたことを、朗読で表現しよう 「やまなし」(10月) ③ 筆者の考えをとらえ、自分の考えと比べて書こう 「自然に学ぶ暮らし」(1月)	・学習を振り返る時間を設定し、筆者の考えと自分の考えを比べることで、自分の考えが広がったり深まったりしたことを確認する。 ③「新しい暮らし方」について、自分が考える「新しい暮らし方」をノートにまとめる時間を設定する。 ③「新しい暮らし方」について、筆者の考えと自分の考えとの共通点・相違点をノートに書く時間を設定する。その後、グループで話し合う活動を設定する。 ④ 自分の考える理想的な未来の社会について、文章に書いてまとめさせる。書いた文章を友だちに読んでもらい、それに対する意見を友だちからもらう場面を設定し、自分の考えを深めたり、広げたりさせる。
算数	【領域：量と測定】 (観点：数学的な考え方) 既習事項との関連 ・面積と人数の割合を求め、どの公園が最も混んでいるかを考察できる。	①曲線のある形の面積(7月) ②立体の体積(10月) ③量と単位(1月)	①小単元「およその面積」では、身の回りにある形から湖や県の花の概形をとらえてから、およその面積を求める。できるだけ、操作活動を中心とする算数的活動を取り入れ、身近な面積を求めたい意欲を高め、発展的な活動につなげていく。 ②本単元に入る前に平行四辺形、三角形、台形の面積の求め方と公式や直方体や立方体の体積の求め方と公式の復習の時間を設定するとともに、面積や体積の意味を振り返る。 ③単位換算等に関して、機械的に捉えさせるのではなく、単位の大きさをしっかりイメージ化できるように、できるだけ児童が生活する場に関連する具体物を提示していく。
理科	【領域：物質・エネルギー】 (観点：科学的な思考・表現) 既習事項との関連 ・水の温度を下げたとき、ミョウバンの溶解度が大きく下がり、溶け残りが生じることを推測できる。	①水溶液の性質とはたらき(11月)	①水溶液は金属を変化させるかに興味をもち、推論しながら追究していくなかで、金属が水溶液によって質的に変化していることを捉えることができるようにする。
社会	【領域：工業生産】 (観点：社会的な思考・判断・表現) 既習事項との関連 ・環境にやさしい自動車づくりの工夫について、複数の資料をもとに読み取り、その内容を表現することができる。	①工業生産を支える人々(9月)	①自動車づくりの不明な点や疑問点を挙げたり、自動車づくりの作業について問いをもたせ、予想したり調べる計画を考えたりする時間を設定する。 ①自分の考えをノートに書かせた後に話し合う活動を毎時間設定する。